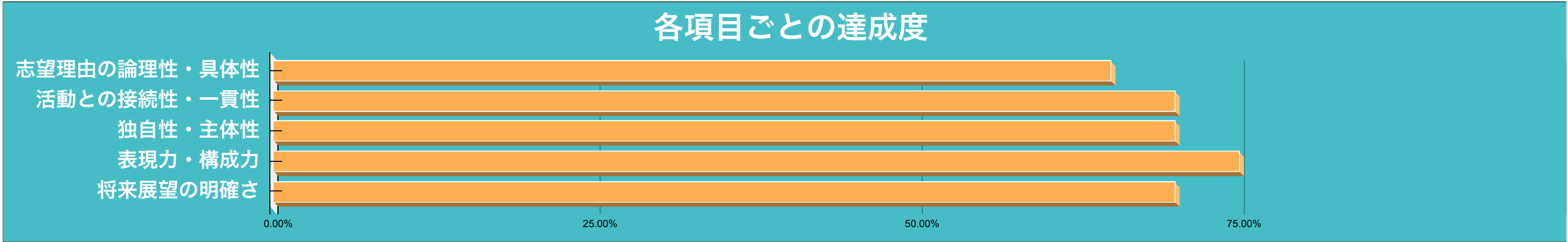


 2025年度 第X回 【実力模試】		高校名：	ITABUN高校	氏名：	いたぶん さくら
		学年：	高3	志望校：	慶應義塾大学 SFC
実力模試の結果		【総合評価】 C			



講評（総括）

今回の書類は、一定の思考力と経験の蓄積が感じられる一方で、「志望理由の深さ」や「活動の独自性」の面で、難関大学の総合型選抜においてはやや物足りなさが残る内容となっています。全体において、主張や将来像が抽象的で、「自分でなければならない理由」が伝わりにくく、活動も“良い生徒”の範囲でとどまっている印象です。受験者の熱意や意志は十分に伝わってくるため、自分の経験から導いた問い（仮説）や課題の掘り下げやその大学でしか実現できない学びの必然性などを補強する必要性が不可欠です。「量から質へ」転換するフェーズに入っていることを自覚し、出願本番までにブラッシュアップされることを期待します。

1. 志望理由の論理性・具体性

社会課題を軸に据えた志望理由としての筋道は通っているが、「なぜこの大学でなければならないか」という要素において、決定的な根拠が乏しい。大学の教育内容への言及も一般論の域を出ず、調査不足の印象を与える。また、「制度と現場をつなぎたい」という主張が抽象的であり、どのようなアプローチを想定しているのか具体例が求められる。

2. 活動との接続性・一貫性

活動それぞれは有意義だが、「教育格差」というテーマに対して、どのような仮説を立て、どのような方法で深掘りしたかが十分に語られていない。説明の大部分が事実の羅列に終始しており、そこから導いた「考察」や「問題設定」が不明瞭で、線としての一貫性はあるが、深さが足りない印象。

3. 独自性・主体性

自主勉強会やボランティアなど、主体的に行動した点は評価できるが、「他者と異なる視点」や「独創的なアプローチ」が見出しづらい。全体的に“良い高校生”の枠内に収まっており、突き抜けた挑戦や創意工夫の表現が弱い。「ありふれた活動を、いかに独自の問いに昇華させたか」が今後の課題。

4. 表現力・構成力

読みやすさや文法面に大きな誤りはないが、「当たり障りのない」書きぶりになっている点もったいない。読み手に印象を残すフックが弱く、文章の構成も教科書的で、熱意や個性がやや埋もれている。「自分にしか書けない語り口」があれば、さらに説得力が増すだろう。

5. 将来展望の明確さ

「NPO・行政・シンクタンク」という将来像はよくある進路提示にとどまっており、自分がそこで何をしたいのかが不明確。抽象的な理想論の域を出ていない。入学後にどのような社会的価値を生み出したいのかまで踏み込む必要がある。